

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年8月20日（木）

2 確認箇所

定検用機材倉庫B（図1）

3 確認項目

使用済み横置き型タンク解体作業の状況

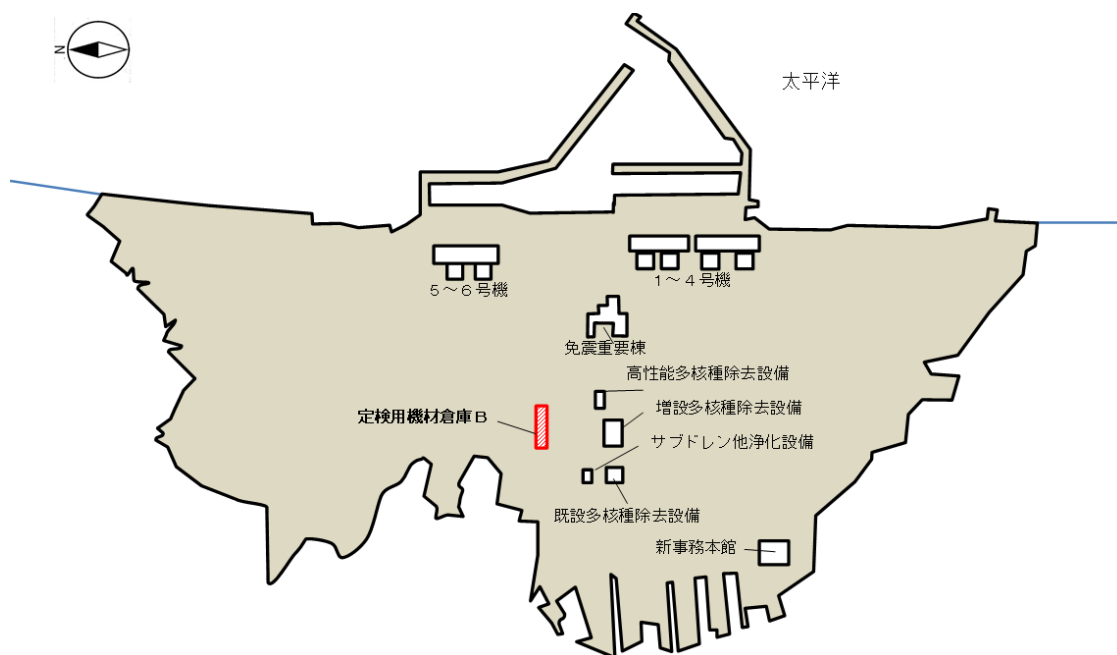
4 確認結果の概要

東京電力では、高濃度の放射性物質を含む建屋内滞留水の処理水を貯蔵するため、当初、横置き型タンク（以下「ブルータンク」という。）を使用していた。その後、より多くの処理水を貯蔵できる縦置き型（溶接）タンクへの置き換えが進められ、使用を終えたブルータンク（全367基）は、現在、水を抜いた状態で発電所構内の4か所において一時保管されている。

当該ブルータンクについては、令和6年11月から未使用のブルータンクを対象に解体作業が開始されたものの、令和7年2月に発生した火災により一時中断された。その後、設備改修等の再発防止対策を講じた上で、令和8年1月から未使用ブルータンクの解体作業が再開されており、同年8月4日からは使用済みブルータンクの解体作業が開始されている。

今回、定検用機材倉庫Bにおいて実施されている使用済みブルータンクの解体作業の状況を確認した。（前回確認：令和8年2月2日）

- ・現場確認時、定検用機材倉庫BにはブルータンクエリアDに一時保管されていた使用済みブルータンクのうち、1基目から3基目までが搬入されていた。
- ・東京電力の説明の下、使用済みブルータンクの一連の解体作業（搬入・付属品撤去、切断、反転・運搬、レーザー照射、冷凍、FRP（繊維強化プラスチック）剥離、汚染検査及び搬出）の状況を確認した。（写真1）
- ・ブルータンクの内側をコーティングしているFRP剥離作業については、レーザー照射による加熱後、急冷しFRPを剥離しやすい状態とした上で叩いて除去している。しかし、一部、剥離が難しい箇所については、へらを用いた剥離作業が行われていた。
- ・確認した範囲において作業安全上の異常等は認められず、火災防止対策等の安全管理やダスト監視等を行いながら、使用済みブルータンクの解体作業が着実に進められていることを確認した。（写真2）



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



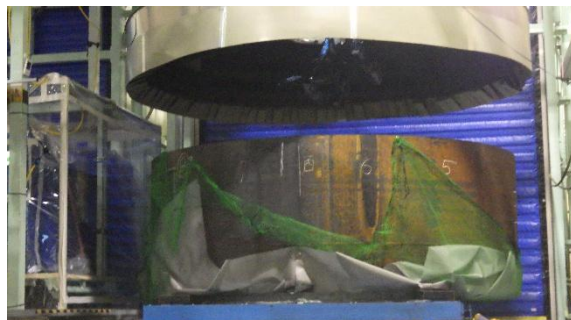
(写真 1-1) 使用済みブルータンク
(3基目)の搬入・付属品撤去作業



(写真 1-2) 使用済みブルータンク
(2基目)の切断作業



(写真 1-3) 使用済みブルータンク
(1基目)の反転・運搬作業



(写真 1-4) 使用済みブルータンク
(1基目)のレーザー照射作業



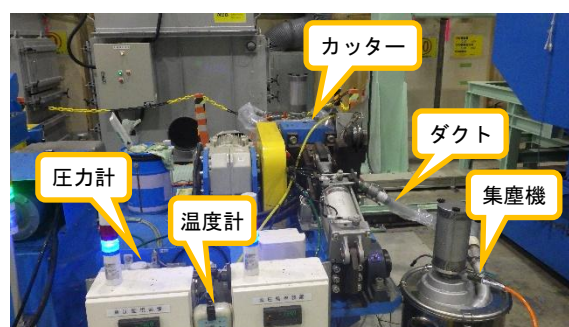
(写真1-5) 使用済みブルータンク
(1基目)のFRP剥離作業



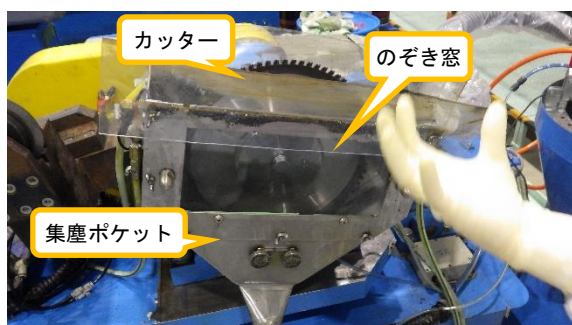
(写真1-6) 使用済みブルータンク
(1基目)の汚染検査作業



(写真1-7) 使用済みブルータンク
(1基目)の剥離後FRPの収納作業



(写真2-1) 切断機の状態①



(写真2-2) 切断機の状態②



(写真2-3) ダストモニタによる監視
の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。